

最近の教育情勢と本県の対応

現状と課題

〔OECD学習到達度調査（PISA2015）結果〕

	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
平均得点	516点	532点	538点
全参加国順位	8位/72か国	5位/72か国	2位/72か国

- ・ 数学的リテラシー、科学的リテラシーは得点、順位とも上昇
 - ・ 読解力は2012年調査から得点が22点、順位は4位から8位に下落
- ⇒ 長文を読み解き、自分の考えを表現すること、複数の文章や表の関係・構成を理解して回答することに課題

	科学を学ぶことが 楽しい割合	将来の仕事に役立つ と考える割合	科学に関する雑誌や 新聞記事を読む割合
日本	49.9%	61.4%	7.1%
OECD平均	62.8%	68.8%	15.8%

⇒ 科学を楽しみ・役立つと感じること、実際の行動につなげることに課題

〔社会状況の変化への対応〕

- 変化が激しい社会において、自ら課題を見つけ解決につなげる学習が必要
- 情報化の進展に合わせ、ICT機器の活用とともに情報の選択・活用力を育成
- 国際的な人・物・情報の流動化が進む中、実際に使える英語等の語学力が重要

＜次期学習指導要領における検討（文部科学省）＞

- ・ 主体的・対話的な学習による課題の発見・解決、実践を強化
- ・ 一定量の論理的な文章を読む機会の増加、文章構成の理解など読解力を向上
- ・ コンピュータ上の文書の読解、情報活用の指導を充実
- ・ 外国語によるコミュニケーション能力を育成、小学校から英語を教科化

〔本県の主な課題〕

- 小・中学校の平均的な学力は高いが、さらに一人ひとりの能力を引き出すこと、高校につなげてより高い目標の実現を支援することが必要
- 基本となる読解力の向上、理科への興味・関心を高めることが重要
- 本県の特長である家庭や地域の高い教育力を今後も維持・向上することが必要

＜全国学力・学習状況等調査から見える課題＞

- ・ 国語：複数の資料の内容を読み取る条件付き作文に課題
- ・ 算数・数学：答えに至るまでの過程の説明に課題
- ・ 地域や社会の問題に対する関心、家の手伝いをする割合は全国平均以下

基本となる読解力、理科への興味・関心を向上

◆ 読書活動の促進など読解力の育成

- 読書活動の促進
 - ・ 小・中学校で年間2冊の図書学校巡回を開始、授業においても活用
- 本県独自の教材を活用した国語教育
 - ・ 小学校での百人一首の音読・暗唱、中学校での故事成語、漢詩等の学習を実施
 - ・ 今年度から福井ゆかりの古典などを取り入れた「古典音読・暗唱ノート」を活用
 - ・ 白川文字学を活用した独自教材による漢字教育を実施

◆ 児童・生徒の関心や意欲を高める理科教育

- 観察・実験による課題の発見・解決を重視した理科教育
 - ・ 「ふくい理数グランプリ」に小学校部門を新設。小・中・高校生約4,000名が参加
 - ・ 成績優秀者による少人数の理数ゼミを実施、「ふくいサイエンスフェスタ」を開催
- 小学校教科担任制（理科）
 - ・ 約7割の小学校で理科の教科担任制や退職教員による理科実験等の支援を実施

課題に対する新たな施策

- 小・中・高校、教科ごとの学校指導體制を強化
 - ・ 県、教育研究所、市町が連携して小・中学校を訪問し、指導體制を強化
 - ・ 学力調査等に基づき教科ごとの授業改善を指導
 - 〔優れた教材等を集約して各学校に提供、課題のある学校を支援〕
- 小学校英語の指導案・教材を作成し、全県に普及。小学校英語の指導體制を整備
- 中学校における発展的な授業のための教材を作成、習熟度別指導を拡充
- 高校生到達度確認テストの分析結果をもとに、作問に参加した各学校の教員に加え、新たに県指導主事が参加して教科ごとの授業を改善
- 実践事例集の作成、教員研修の拡充、教材提供など探究型の授業に対する支援を強化
- 大学入試におけるコンピュータ利用などに対応し、ICTを活用した学習を強化
- 教育研究所の機能・体制を強化して教員を支援
 - ・ 新たな教育課題に対応する時事問題の学習用教材やICTの活用法などを各学校に提供
 - ・ 理科実験の中学校・高校への配信や高校生を対象とした高度な実験講座を実施
- 保護者向けの家庭教育研修、パンフレット配付など家庭との連携を促進